

イネカメムシに対する薬剤の効果と効率的な防除体系

病害虫研究担当 岩瀬亮三郎

イネカメムシの加害期間は出穂期から30日程度と長いことから、県内で使用されている主な薬剤の成虫に対する殺虫効果とその持続期間を調査しました。

試験は越冬世代成虫の発生時期(7月下旬)と、第1世代成虫の発生時期(8月中旬)に所内ほ場で行い、薬剤処理したイネ株に放った成虫の死虫率を殺虫効果とし、死亡率が70%程度となるまでの期間を持続期間としました。

処理直後の殺虫効果は多くの薬剤で高かったものの、持続期間は薬剤によって大きく異なりました(表1、2)。調査結果を基に、効率的な防除体系を検討したところ(図1)、持続期間が長いキラッププロアブルまたはキラップ粒剤と他剤を組み合わせることで、加害期間を通じて殺虫効果を持続させることができました。イネカメムシの発生が少ない場合には薬剤を省略することも可能ですが、発生状況の把握のために周辺ほ場の観察や病害虫防除所の予察情報を確認しましょう。

薬剤によっては殺虫効果が低下しても、吸汁を阻害することで被害を防げる可能性があります。次年度は主な薬剤の吸汁阻害効果について調査し、より効率的な防除体系を提案したいと考えています。

表1 液剤等のイネカメムシ成虫に対する効果

IRAC	薬剤名	希釈倍率	越冬世代		第1世代		※1 午前中に薬剤を散布し、夕方に放虫した場合の殺虫効果は高い	※2 薬液が虫に直接触れた場合の殺虫効果は高い
			処理直後 ^{※1} の殺虫効果	効果持続期間 の目安	処理直後 ^{※1} の殺虫効果	効果持続期間 の目安		
2B	キラッププロアブル	×1000	◎	18~22日	◎	14~16日		
4A	スタークル液剤10	×1000	◎	6~8日	◎	9~11日		
4A	ダントツ水溶剤	×2000	—	—	◎	7~10日		
3A	トレボン乳剤	×2000	△ ^{※2}	—	—	—		
4C	エクシードプロアブル	×2000	◎	5~6日	◎	3~5日		
1B	スミチオン乳剤	×1000	◎	1日	◎	1日		
2B	キラッププロアブル (現地・ドローン散布)	×8 0.8L/10a	—	—	◎	14~16日		

表2 粒剤のイネカメムシ成虫に対する効果

IRAC	薬剤名	使用量	越冬世代		第1世代	
			死虫率100%となった 処理後日数	効果持続期間 の目安	死虫率100%となった 処理後日数	効果持続期間 の目安
2B	キラップ粒剤	3kg/10a	4日	25日以上	3日	18~20日
4A	スタークル粒剤	3kg/10a		6~8日		8~10日
2B	キラップ粒剤 (現地・ドローン散布)	3kg/10a	10日程度	28~30日	—	—

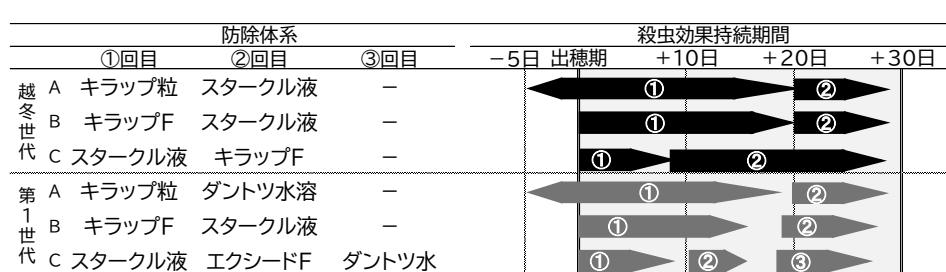


図1 各薬剤の効果持続期間に基づく防除体系